Libraria

Hauptströmungen der Gegenwartsphilosophie

現代哲学の主潮流 1

W. シュテークミュラー

中埜 肇／竹尾治一郎 監修
森田 孝／磯江景孜／中埜 肇 訳

W. シュテークミュラー

現代哲学の主潮流 1

——ブレンターノ，フッサール，シェーラー，
ハイデガー，ヤスパース，ハルトマン——

中埜 肇／竹尾治一郎 監修
森田 孝／磯江景孜／中埜 肇 訳

りぶらりあ選書／法政大学出版局

監修者・訳者とその分担

中埜　肇（なかの はじむ）
〔第Ⅴ，Ⅵ章〕
大阪市立大学文学部教授

竹尾 治一郎（たけお じいちろう）
関西大学文学部教授

森田 孝（もりた たかし）
〔序文，序論，第Ⅰ，Ⅲ章〕
大阪大学人間科学部教授

磯江 景孜（いそえ かげあつ）
〔第Ⅱ，Ⅳ章〕
京都大学教養部助教授

りぶらりあ選書
現代哲学の主潮流 1
発行　1978年9月12日　初版第1刷
　　1984年9月10日　　第2刷
著　者　W.シュテークミュラー
監修者　中埜肇／竹尾治一郎
訳　者　森田孝／磯江景孜／中埜肇
発行所　財団法人 法政大学出版局
〒106 東京都千代田区富士見2-17-1
電話03(237)1731／振替東京6-95814
製版，印刷　三和印刷
鈴木製本所
© 1978 Hosei University Press
1310-10071 7710

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

りぶらりあ選書

モーツァルトとフリーメーソン	K. トムソン 湯川新／田口孝吉 訳	¥2000
音楽と中級階級〈演奏会の社会史〉	W. ウェーバー 城戸朋子 訳	¥2200
書物の哲学	ポール・クローデル 三嶋睦子 訳	¥1600
ベルリンのヘーゲル	ジャック・ドント 花田圭介監訳／杉山吉弘訳	¥2900
福祉国家への歩み	M. ブルース 秋田成就訳	¥4500
ロボット症人間	L. ヤブロンスキー 北川隆吉／樋口祐子 訳	¥1800
合理的思考のすすめ	P. T. ギーチ 西勝忠男 訳	¥1900
カフカ＝コロキウム	C. ダヴィッド編 円子修平，他 訳	¥2500

法政大学出版局

りぶらりあ選書

スミス，マルクスおよび現代	ロンルド・L.ミーク 時永　淑 訳	¥2800
愛と真実〈現象学的精神療法への道〉	ピーター・ローマス 鈴木二郎 訳	¥1600
資本論と現代資本主義Ⅰ・Ⅱ	A.カトラー／他 岡崎／塩谷／時永 訳	
弁証法的唯物論と医学	ゲ・ツァレゴロドツェフ 木下順一／仲本章夫 訳	
イ　ラ　ン〈独裁と経済発展〉	F.ハリデー 岩永／菊地／伏見 訳	¥2800
競争と集中〈経済・環境・科学〉	T.ブラーガー 島田稔夫 訳	¥2500
抽象芸術と不条理文学	L.コフラー 石井扶桑雄 訳	¥2400
プルードンの社会学	P.アンサール 斉藤悦則 訳	¥2500
ウィトゲンシュタイン	A.ケニー 野本和幸 訳	¥2500
ヘーゲルとプロイセン国家	R.ホッチェヴァール 寿福真美 訳	¥2500
労働の社会心理	M.アージル 白水繁彦／奥山正司 訳	¥1900
マルクスのマルクス主義	J.ルイス 玉井　茂 訳	¥2900
人間の復権をもとめて	M.デュフレンヌ 山縣　熙 訳	¥2800
映画の言語	R.ホィティカー 池田博／横川真頭訳	¥1600
心身症〈葛藤としての病 2〉	A.ミッチャーリヒ 中野／大西／奥村訳	¥1500
食料獲得の技術誌	W.H.オズワルト 加藤晋平／秀仁志訳	¥2500

法政大学出版局

W. シュテークミュラー

現代哲学の主潮流 1

——ブレンターノ，フッサール，シェーラー，
ハイデガー，ヤスパース，ハルトマン——

中埜 肇／竹尾治一郎 監修
森田 孝／磯江景孜／中埜 肇 訳

りぶらりあ選書／法政大学出版局

Wolfgang Stegmüller
HAUPTSTRÖMUNGEN DER
GEGENWARTSPHILOSOPHIE

©1975 Alfred Kröner Verlag, Stuttgart

Japanese translation rights arranged
through Orion Press, Tokyo.

監修者まえがき

本書は、Wolfgang Stegmüller, *Hauptströmungen der Gegenwartsphilosophie : Eine kritische Einführung*, 2 Bände (5. Auflage, Stuttgart: Kröner, 1975) の翻訳である。翻訳にあたって、原著者の了解を得て、原著第一巻の第七章と第八章をはぶいた。それらはおのおのR・ライニンガーとP・ヘーバーリンの哲学を扱った章である。また二巻からなる原著を邦訳では四分冊にして出版することになった。その際はじめの二分冊（つまり、原著第一巻）および後の二分冊（つまり、原著第二巻）のおのおのについて、各章に通し番号を付した。これは原著の方針に従ったのである。原著第二巻（邦訳第三分冊）にはまた、独立の序論がついている。ただし最初に述べた省略の結果として、邦訳第二分冊の第七―九章は、おのおの、原著第一巻の第九―一一章にあたることになる。

原著の初版の出版は一九五二年のよしである。それは、「第二版への序文」によれば、カルナップとウィーン学団を扱う章までの一巻（九章）本であった。ところがその後、版を改めるごとに筆が加えられ、基礎論と分析哲学（第二版、一九六〇年）、ウィトゲンシュタイン（第三版、一九六五年）、チョムスキー（第四版、一九六九年）に関する各章が継ぎ足されていった。そうしてこの翻訳の底本とされた第五版（一九七五年）において、分量からいうとそれまでのページ数の約七割にあたる五六〇ページ余りからなる第二巻が新たに書きおろされたのである。私たちがそれを知らされたのは、本書第四版を翻訳しようと

する計画が具体化した直後のことであった。監修者の一人への私信において、著者は第二巻の出版が間近いことを告げ、その概略を説明するとともに、次のように付け加えた。「もしそれが日本語に訳されますならば、それは世界で最初の外国語版となるでしょう」。ちなみに、本書第四版には、英語のほか、スペイン語、セルボ・クロアート語への翻訳があるそうである。*

* 英訳は、*Main Currents in Contemporary German, British, and American Philosophy*. Translated by A. E. Blumberg. (Reidel, 1969).

このような度重なる増補、改版の結果として本書の内容にも変化が生じたが、その最大のものは、分析哲学と科学哲学を扱った部分の割合が飛躍的に増加したことである。初版においては九章のうちの一章であったものが、第五版においては総ページ数の六〇パーセントに達することになった。邦訳では上記の省略の結果、この比率はさらに大きくなっている。じっさい、邦訳では古い哲学は第一分冊に片寄せられ、エキゾティックな異彩を放っている。

いずれにしても原著第一巻と第二巻とでは著者の執筆態度にも差異があり（「第五版への序文」を参照）、これら二巻の連続性はあいまいである。それらは内容的に独立の本とみることもできないわけではない。しかしながら、本書はもともと何か特定の哲学的学派の立場から、現代哲学をその歴史的起源にさかのぼって発展史的に叙述しようとするものではない。シュテークミュラー教授の本書における仕事は、そのような意味において、体系的というよりは分析的である。全巻を通じて各章は個別に読まれてもよく、前の章に述べられた哲学に、後の章に扱われている学説の歴史的ないしは体系的な由来を求める必要はかならずしもない。著者はそのような書き方を意図してはいないと考えられる。彼が本書において達成していることは、たぐいまれな簡潔さと的確さで、現代哲学におけるさまざまな学派の基本的学説や重要な哲学的

運動に含まれている主張を概観し、それらを哲学の中心問題のいくつかに関係づけたことである。この点からみるならば、本書は現代哲学の十分に信頼しうるハンドブックとして活用される価値があるといえるであろう。

原著第一巻（つまり、邦訳第一および第二分冊）では、ブレンターノ、フッサールからカルナップ、ウィトゲンシュタインに至る、――その選択がドイツ系の哲学者にかたよりすぎるきらいはあるにしても、――互いに異質的なさまざまの哲学者の学説を各章にひとつずつ取り上げ、周到な理解の上に立つ解説を加えた後に、この著者に特徴的な冷静で公平な評価を下している。じっさいこの種の仕事が容易でないことは、次のような事情を考えてみれば明らかであろう。現代世界の哲学者のなかで最もいきいきとした活動をしている分析哲学者たちの間には、ハイデガーなどの哲学に対する、根拠がなくはない不信があまねくいきわたり、およそ哲学的に重要なことで彼などから学びうるものは何ひとつとして存在しない、と考えられるのがごく普通になっている。この考えが正しいにせよ、誤っているにせよ、科学哲学者にとっては、その専攻分野に研究すべき重要な課題がいくらでもあり、ハイデガーの哲学などについて解説や批判を書くことは、時間の浪費としか思われないのが普通であろう。しかしまた他方、最近の論理学や科学哲学の文献になじまず、技術的な細部の問題を扱う能力に不安が多い哲学者たちに、本書の著者が果しているような、一般読者に対する現代哲学の全般的な解説の役割を期待するのはもとより無理な相談だといわなければならない。合理的な読者は、どのような哲学がそれを学ぼうとする努力に値いするかを見定めるために、現代哲学の断絶したこれら二つの傾向のいずれについても正確な知識を得たいと思うであろう。本書がクレーナー社の小型本叢書の一点として長く一般読者に親しまれてきたという事実も、この事情をさながらに物語っているように思われる。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

しかし本書の面目を全く一新させたものは、原著第二巻の追加であった。その前半（邦訳では第三分冊）では、(1)現代の代表的な言語哲学（チョムスキー、モンタギュー、オースティン）、(2)様相論理学をはじめとする各種の哲学的論理学、(3)新しい指示理論（クリプキ）、が簡潔に紹介され、(4)スカンジナヴィアの分析哲学者（フェレスダール、フォン・ウリクト）の挙げた成果が、ドイツの現象学、解釈学と対比される。このように、前半では分析哲学と論理学のかなり尖端的な成果のいくつかが扱われている。これに対して、後半ではむしろ古めかしい自然哲学の問題が、新しい科学哲学のよそおいの下に扱われているのは興味深いことである。ただしここでの科学哲学については注釈が必要であろう。なぜならば、それは、科学理論とは何であるかということについての、（著者自身が一九七三年以前にもっていた考えからも全く異なる）新しい理解の上に立つ科学哲学なのだからである。それはおおざっぱにいえば、科学理論を言明の集まりとみる古典的な解釈とは異なって、（重要な部分が数学的構造から成る）構造として捉える立場なのである。このような解釈の下では、たとえば有名な科学史家、T・S・クーンの、「科学史においては経験的データによる反証がなされなくても理論交代が起る」といった主張は、クーンの批判者たち（主として、K・ポパー一派の哲学者たち）がいうように、科学の歴史を非合理な要因に動かされて生じる過程であるとみる見解にみちびく、と解釈する必要はないことになるであろう。このように、クーンの科学哲学と考えられるものから非合理主義的あるいは主観主義的解釈のおそれを取り除いた後で、著者はクーンによって開かれた新しい角度から科学の合理性という問題に再検討を加え、同時にまた、科学史に現われる科学を、地球人類に独特の現象として、宇宙の進化という観点から解釈しようと試みるのである。

こうして宇宙の進化論が原著第二巻後半（邦訳では第四分冊）におけるシュテークミュラーの科学哲学あるいは科学基礎論となる。まず現代の天文学理論によって与えられる宇宙の起源と進化の説明が概観さ

れ、つづく章では、主としてM・アイゲンの理論による、物質ならびに生物の起源と進化の説明が要約される。上にも述べたことであるが、これらはいずれも古い自然哲学的問題に対する近代科学の解答である。しかしそうだとすれば、それら自身も科学史上の知識なのであるから、さらにそうした知識の進化が、宇宙の進化という観点から考えられることになるであろう。著者はクーンの理論についての解説をこのテーマについての議論にみたてている。もちろん、このような著者のクーン解釈に対しては異論がないわけではない。しかし、ポパーを含む従来の意味での科学哲学者たちの主張と、科学史家たちのこれに対する反論によって作られている緊張への興味深い反応として、著者の考えが論議されるに値いする内容をもっていることは十分に認められるであろう。

最後に著者の略歴と主要著作について手短かに述べておきたい。ヴォルフガング・シュテークミュラーは一九二三年、インスブルックの近くのナテルス（Natters b. Innsbruck）に生まれ、インスブルック大学に学んで経済学（一九四五年）と哲学（一九四七年）の学位を得た。同大学の哲学講師を振り出しに、キールおよびボンをへて、一九五八年以来、ミュンヘン大学の哲学正教授である。シュテークミュラー教授は、その主要著作表にも示されている通り、現代アメリカ（そして、英国）における分析哲学、論理学、科学基礎論の広範かつ多岐にわたる先進的業績の、ドイツ語による練達のリポーター、そして解釈者、としてよく知られている。ことに、現在なお未完結の大著、『科学哲学と分析哲学の問題と成果』四巻は、多数の論理学者および科学哲学者による現在までの研究成果の集大成であると同時に、それらの成果の批判的分析にもとづく著者自身のいくつかの創見をも含んでいる。同じくドイツ系の科学哲学者であるH・ファイグルがこの大著について評したことばから引けば、「著者の文体にはドイツ流の偏執癖がなく、またドイツ語のこういった大部の著作に、（不当ともいえないことであるが）予期されるでもあろう誇張や

朦朧としたところが全くない」。ファイグルの批評がこの大著に対してあたっているとすれば、それはまた、著者の処女作から生長してきた本書についても、そのままいえることであろう。

シュテークミュラー教授の本書以外の主要著作（一九七八年四月現在）は次の通りである。

A 著書

Metaphysik, Skepsis, Wissenschaft (Springer-Verlag, 1954;1969).

Das Wahrheitsproblem und die Idee der Semantik : Eine Einführung in die Theorien von A. Tarski und R. Carnap (Springer-Verlag, 1957;1968).

Unvollständigkeit und Unentscheidbarkeit : Die metamathematischen Resultate von Gödel, Church, Kleene, Rosser und Ihre erkenntnistheoretischen Bedeutung (Springer-Verlag, 1959 ; berichtigte Aufl., 1970).

Probleme und Resultate der Wissenschaftstheorie und Analytischen Philosophie (Springer-Verlag).

Band I : *Wissenschaftliche Erklärung und Begründung* (1969).

Band II : *Theorie und Erfahrung* (1970, 1973).

1. Halbband : *Begriffsformen, Wissenschaftssprache, empirische Signifikanz und theoretische Begriffe* (verbesserter Neudruck, 1974).

2. Halbband : *Theorienstrukturen und Theoriendynamik* (1973)*.

Band IV : *Personelle und statistische Wahrscheinlichkeit* (1973).

1. Halbband : *Personelle Wahrscheinlichkeit und rationale Entscheidung.*

2. Halbband : *Statistisches Schließen——Statistische Begründung—— Statistische Analyse.*

(* 英訳 *The Structure and Dynamics of Theories.* Translated by W. Wohlhüter. (Springer-Verlag, 1976))

B 論文集

Glauben, Wissen und Erkennen / Das Universalienproblem einst und jetzt (Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 1965).

Der Phänomenalismus und seine Schwierigkeiten / Sprache und Logik (do., 1968).

Aufsätze zur Wissenschaftstheorie (do., 1970).

Aufsätze zur Kant und Wittgenstein (do., 1970).

Das Problem der Induktion : Humes Herausforderung und moderne Antworten / Der sogenannte Zirkel des Verstehens (do., 1975).

これらの論文の多くは、英訳されて次に収められている。

Collected Papers on Epistemology, Philosophy of Science and History of Philosophy, 2 vols. (Reidel, 1976).

C　その他

(Mit R. Carnap), *Induktive Logik und Wahrscheinlichkeit* (Springer-Verlag, 1958).

この訳書の出版にあたって、私たちは多くのひとびとの御助力を忝くした。法政大学の斎藤哲郎教授は私たちの希望を法政大学出版局に取り次いで下さり、同出版局の快諾が得られた。訳者の一人である大阪大学の森田教授は独立に進めておられた本書の訳業を中止して、私たちの計画に参加された。監修の仕事の分担については、第一、第四分冊を中埜の、第二、第三分冊を竹尾の監修とすることになった。ただし全巻にわたり監修者と訳者が互いに連絡をとりながら仕事を進めてきたことはいうまでもない。終りに、この訳業の出版に尽力された法政大学出版局の方々にお礼を申し上げたい。

竹尾　治一郎

目次

監修者まえがき　xi
第五版への序文　1
第二版への序文　4
第三版への序文　11
第四版への序文　17
序論　現代哲学の諸問題　19
一　現代哲学における伝統と独創　19
(a)　カントと現代哲学　21
(b)　哲学、科学および文化　24
(c)　現代の非合理主義　31
二　哲学の分化の過程　32
三　予備的概観　38
(a)　形而上学と存在論　38
(b)　論理学と認識論　42

(c) 倫理学 47

第一章 明証性の哲学——フランツ・ブレンターノ 51

一 心的現象と認識 52

(a) 心的諸現象と真理の場所 52

(b) 真理概念の変遷 56

(c) 判断の種類 62

(d) 意識と世界 66

二 存在者の理論 69

(a) 存在概念の統一性 69

(b) 普遍問題と「存在する(seiend)」という語の意味 72

(c) カテゴリーの問題 74

三 倫理的なものの認識についての学説 79

四 神の認識についての学説 83

(a) 神の証明 83

(b) 弁神論 88

評価 90

第二章　方法的現象学――エードムント・フッサール　107
一　真理の絶対性　108
(a)　心理学主義の経験論的帰結　109
(b)　懐疑的相対主義としての心理学主義　110
(c)　心理学主義の先入見　112
二　普遍の問題　115
三　志向性論、判断論および認識論（意識の現象学）　120
(a)　意識における意味階層　120
(b)　志向作用の構造　122
(c)　認識の現象学　125
(d)　感性的認識とカテゴリー的認識　128
四　現象学的本質直観　130
五　現象学と超越論的哲学　136
評　価　142
第三章　応用現象学――マックス・シェーラー　159
一　認識論と現象学　163

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com